

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点（短期経営目標）	
「峰山学園」の経営方針を踏まえ、教育活動全体を通して学園教育目標「ふるさとを愛し、多様な人とつながりながら学び、探究し続ける子どもの育成」に迫る。 〈峰山学園 めざす子ども像〉 ・主体的に学び続ける子ども ・人を思いやり仲間と共に高め合える子ども ・粘り強く挑戦し続ける子ども		○学校教育目標の理念が教職員、児童ともに浸透した。 ○気になる児童や事象について組織的に早期対応を行う中、不登校傾向児童はいない。また、大きな生徒指導事象もない。 △各教科の「見方・考え方」を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現や探究的な学習についての研究を推進する。 △PTA や保護者と連携して SNS の利用の仕方や就寝時刻について考え、よりより生活習慣の確立を目指す。 △特別支援教育について、外部と連携して個々のニーズに応じた指導や支援の方法を学び指導に生かすとともに、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を進めていく。		学校教育目標「ちがいを認め合い、笑顔あふれる学校」 人権尊重を基盤とし、あらゆる教育活動を通して、一人ひとりを大切にした教育を推進する。 1 人を思いやる豊かな人間性の育成、安心できる居場所づくり（心理的安全性） 2 一人ひとりを大切に個性や能力を最大限に伸ばす指導（発達支持的生徒指導） 3 確かな学力・コミュニケーション能力の育成（個別最適な学び・協働的な学び・探究的な学び・深い学びの推進） 4 たくましく健やかな心身の育成 5 ふるさとを愛し、安心・安全で信頼される学校づくり（環境整備、保護者・地域連携）	
学校 教育 指導 の 重点 、 保 幼 小 中 一 貫 教 育 の 諸 計 画 及 び 各 学 園 の 重点 等 を 基 盤 と して	評価項目	重 点 目 標		具 体 的 方 策	
	教育課程 学習指導	1 各教科の「見方・考え方」を働かせながら、「深い学び」「探究的な学び」の実現に向けた授業づくりを追究する。 2 振り返りを重視し、自己調整力を育成する。 3 目標と指導と評価の一体化を図る。 4 ICT のより効果的な活用を推進する。		1 学園の秋季研修会の公開授業に向けて、研究推進部が中心になり、理論研修や研究授業を計画的に実施し、教員の意識の向上を図る。 2 自分を見つめ直す場を設定し、成長や効果的な学習方法等に気付かせる。 3 児童実態に応じた目標を設定し、ゴールを明確にした授業づくりを行う。 4 授業と家庭学習を連動させた ICT の利活用について、交流しながら追求する。	
	生徒指導	1 人を思いやる豊かな人間性を醸成する。 2 発達支持的生徒指導を全教育活動で推進し、不登校傾向やいじめ事象等の未然防止、早期発見、早期解消に努める。		1 教え合い助け合う児童同士のつながりを通して、誰もが安心して生活でき居場所のある学級、学校づくりを進める。 2 児童が主体となる活動を仕組むと共に、一人ひとりを大切にして、全教職員で全校児童を育てることを意識化する。また、生徒指導部、教育相談部、いじめ防止委員会の機能化を図る。	
				○学校教育目標の理念を機会あるごとに伝え価値付けすることで、思いやりのある行動を多く見ることができた。 ○児童の希望に寄り添いながらできることを模索し、「誰もが楽しめるように」工夫しながら児童が主体となる行事や取組を行うことで、達成感を感じさせることができた。 ○気になる事象については情報を共有し組織的に早期対応を行った。いじめや大きな生徒指導事象はなく、不登校傾向児童もいない。	

健康（体育）・安全	1 体を動かすことを楽しみ、体力づくりやスポーツに親しむ態度を育成する。 2 家庭と連携して基本的な生活習慣を確立させる。 3 危機管理の充実や環境整備による安心・安全な学校づくりに努める。	1 体育や中間マラソン、縄跳び等、目標を明確にし、振り返りながら取り組む体力づくりを充実させる。 2 生活がんばり週間を活用し、PTA 本部役員や保護者の協力を得て、SNS の使用時間や就寝時刻を考える等、健康的な生活習慣を確立させる。 3 年間 4 回の避難訓練を実施し、状況に応じた身の守り方を学ばせる。また、毎月安全点検を行い修繕に努めるとともに、家庭や地域と連携し、安心安全な登下校を目指す。	○各自が目標に向かって取り組んだことで、達成感を得ることができた。 △年間 3 回の生活がんばり週間を設定したり、PTA 本部役員から啓発の便りを発行していただいたりしたが、ゲームの時間や就寝時刻は改善できなかった。 ○避難訓練を計画通りに実施し、状況に応じた避難の仕方を学ばせることができた。年間を通して、安全点検やニコニコカーでの保護者による登下校の見守り活動が実施できた。
人権教育	1 人権尊重を基盤とした学校経営を推進し、教職員の人権意識の高揚を図る。 2 違いを認め合い、多様性を受け入れ、誰とでも仲良くできる児童を育成する。 3 人権について考える機会を設定するとともに、保護者への理解を深める。	1 全教育活動を学校教育目標と連動させ、研修等を通して、教職員に人権尊重を意識させる。 2 違いを認め合い、教え合い助け合う学習や異年齢活動を通して、居心地のよい学校・学級づくりを進める。 3 人権旬間や人権月間で課題に応じたテーマを設け取り組む。また、学校・学級だより等や授業公開を通して保護者等に啓発・発信をする。	○学校教育目標を日常的に意識させるとともに校内研修等で自身を振り返る機会を設け、教職員の人権意識の高揚を図った。 ○児童会活動等で「誰もが楽しめること」を考えて取組を計画することが定着した。 △友達関係の中で気になる事象があり組織的に対応することで緩和されたが、継続して状況把握をしていく必要がある。 ○人権旬間や人権月間等を計画的に進めることができた。良い所見つけや外部講師による講話等により、人権尊重の気持ちや障害に対する理解を深めることができた。ホームページ等での発信や、授業公開も実施できた。
特別支援教育	1 ちがいを理解して、認め合い、助け合える人間関係を築く。 2 特性に応じた指導・支援の方法を追求する。 3 保護者や関係機関と連携し、個々のニーズに応じた就学相談を進めていく。	1 学級開きや人権学習等を通して、様々な障害に対する理解教育を行う。 2 発達障害等、個別の支援が必要な児童への効果的な支援方法を他機関と連携して追求していく。 3 保護者との定期的な懇談を実施し、保護者の願いを反映させた個別の教育支援計画を作成する。また、外部と連携して個々のニーズに応じた指導や支援の方法を学び指導に生かすとともに、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を進めていく。	○学級開きや朝会等の講話で理解教育を行い、互いを認め合う雰囲気が醸成された。 ○局の研修会や丹後地域教育支援センターの巡回相談等により、支援を要する児童の効果的な指導や支援の方法を学んだ。 ○事前に打ち合わせをして懇談に臨むことで、保護者と良好な関係を保ちながら懇談を継続することができた。今後も、児童や保護者の気持ちに寄り添った就学相談を継続していく必要がある。
次年度に向けた改善の方向性	1 各教科の「見方・考え方」を意識した「主体的・対話的で深い学び」の実現や探究的な学習になる授業を全教員ができるように引き続き研修を実施する。 2 PTA や保護者、児童会と連携して SNS の利用の仕方や就寝時刻について考え、よりよい生活習慣の確立を目指す。 3 特別支援教育について、個々のアセスメントを丁寧に行うとともに、外部との連携を図り個々のニーズに応じた指導や支援の方法を学び、保護者や児童の気持ちに寄り添った就学相談を継続して行う。		